

大阪府森林組合通信

2017.10 Vol.33

ヤマウドの花とウメドキの実
(撮影地：枚方市穂谷地区)

8月18日 第16回大阪府森林組合 通常総代会を開催しました。

当組合は第16回通常総代会を8月18日午後2時より、大阪市中央区の国民會館大ホールにおきまして、大阪府副知事の竹内様、近畿中国森林管理局長の馬場様をはじめ、関係各方面より多数のご来賓をお迎えし、総代250名中199名(うち委任状72名)の出席により開催いたしました。

第9号議案
「役員退任慰労金の支給について」
及び「附帯決議」
を上程させていただき、各議案とも原案通り可決・承認をいただきました。

第3号議案

「平成29年度借入金金の最高限度額の決定について」

第4号議案

「平成29年度余裕金預け入れ先の決定について」

第5号議案

「大阪府森林組合定款の一部改正について」

第6号議案

「大阪府森林組合役員選任規程の一部改正について」

第7号議案

「役員改選について」

第8号議案

「役員報酬の決定について」



竹内大阪府副知事の挨拶

ご挨拶

大阪府森林組合
代表理事組合長 栗本 修滋



代表理事組合長の栗本修滋です。

本年8月18日に通常総代会を大阪市内で開催いたしました。各地域から選出された総代の皆様に、役員改選を含め上程した9議案を可決承認していただきました。大変ありがとうございました。

平成28年度は、大阪府の森林環境税など新たな事業がス

タートし、混乱も予想されましたが、一定の成果を残すことができ、3カ年連続の黒字決算とすることができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。次第です。

さて7月5日～6日にかけて発生した九州北部の豪雨被害では、地域森林とともに森林組合系統にも甚大な被害が発生しました。

また10月22日には、超大型の台風21号が近畿地方に接近し、激しい暴風雨により府内各地域に多大な災害を引き起こしました。組合では森林の被害状況を把握し、関係機関と協議するように、各支店へ指示しています。(10月24日現在)

被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

いずれの地域においても、

森林の保水力を超えた豪雨によるもので、不可抗力との見方が大勢を占めています。それでも森林・林業に携わるものとして、被害を少なくするため、森林整備に対する不断の努力が必要と痛感しています。

さらに違法な土砂処分等により引き起こされる災害防止に向け、大阪府と協力体制を構築する協定を締結いたしました。不審な土砂処分などを見かけられましたら、お近くの組合事務所までお知らせください。

森林が地域住民の脅威の対象ではなく、安心・安全で豊かな暮らしを支える存在となるよう、林業の活性化と森林整備に努力していきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

Contents

8月18日 第16回大阪府森林組合通常総代会を開催しました。	1
ご挨拶	1
平成28年度決算報告	2
平成29年度事業計画	3
大阪府森林組合新たな体制	3
土砂などの不適正事業の未然防止のために	3
林政情報	3
SGEC国際認証を取得しました。	4
森林経営計画へのご協力をお願い	4

今後の木材建築のイノベーション「CLT建築」	5
組合員様へのお願い	5
木材市況	5
「見て・知って・考える」高校生の森林環境フィールドワークを開催	6
建築事業部だより	7
木根館 ラ・フォレスト イベント情報	7
ヒノキのベンチを河内長野市役所に寄贈	8
共販所で広葉樹の製品市を開催します。	8
公衆浴場(銭湯)でヒノキを浮かべて『檜の湯』	8

平成28年度決算報告

貸借対照表（平成29年5月31日現在）（単位：円）

科 目	内 訳	小 計	合 計	科 目	内 訳	小 計	合 計
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産				流動負債			
現金・預金		1,045,813,551		買掛金		3,868,204	
さきもり基金		505,567,020		未払金		114,339,994	
受取手形	6,290,114			前受金		11,582,146	
売掛金・未収金	21,957,066			預り金		9,783,860	
上記2項目の貸倒引当金	△ 189,000	28,058,180		その他		31,952,400	
				流動負債合計			171,526,604
たな卸資産		29,499,745					
その他		9,135,660		固定負債			
流動資産合計			1,618,074,156	農林漁業資金借入金		24,994,735	
固定資産				林構施設借入金		40,542,824	
有形固定資産	1,026,192,174			預り保証金		9,670,000	
減価償却累計額	△ 799,045,364	306,743,832		退職金給付引当金		109,567,457	
無形固定資産		288,668		役員退任慰労金引当金		13,587,484	
固定資産合計		307,032,500		基金預り金	504,000,000		
				組合拠出金	△ 88,100,000	415,900,000	
外部出資				その他積立金・基金		498,775,340	
系統出資金		35,870,000		固定負債合計			1,113,037,840
系統外出資金		19,831,080		負債合計			1,284,564,444
外部出資金合計		55,701,080					
その他の固定資産				(資本の部)			
農林漁業資金貸付金	24,994,735			出資金		201,086,000	
貸倒引当金	△ 4,998,000	19,996,735		出資金合計			201,086,000
その他		5,100,000		剰余金			
その他の固定資産合計		25,096,735		準備金・積立金		391,473,935	
固定資産合計			387,380,315	当期末処分剰余金		128,780,092	
				剰余金合計			520,254,027
				資本合計			721,340,027
資産合計			2,005,904,471	負債・資本合計			2,005,904,471

1. 受取手形の割引高は0円である。
2. 受取手形の裏書譲渡高は0円である。

損益計算書（平成28年6月1日～平成29年5月31日）（単位：円）

科 目	小 計	合 計
I 事業総損益		
1. 収益	1,411,821,936	
2. 費用	1,069,450,725	
事業総利益		342,371,211
II 事業管理費		
1. 人件費	212,962,055	
2. 旅費交通費	4,318,951	
3. 事務費	6,057,631	
4. 業務費	4,859,797	
5. 諸税負担金	7,877,108	
6. 施設費	54,421,412	
7. 雑費	1,071,510	
事業管理費計		291,568,464
事業利益		50,802,747
III 経常損益		
1. 事業外収益	6,965,299	
2. 事業外費用	2,563,982	
事業外損益		4,401,317
経常利益		55,204,064
IV 特別損益		
1. 特別利益	13,693,946	
2. 特別損失	4,830,001	
特別損益		8,863,945
税引前当期利益		64,068,009
法人税及び住民税額		2,055,579
当期剰余金		62,012,430
前期繰越剰余金		66,767,662
当期末処分剰余金		128,780,092

部門別損益計算書（単位：円）

部 門 別	費 用	収 益	損 益
指 導 部 門	2,269,994	1,646,205	△ 623,789
販 売 部 門	180,793,688	195,044,196	14,250,508
加 工 部 門	117,350,839	133,239,910	15,889,071
森林整備部門	769,036,204	1,081,891,625	312,855,421
合 計	1,069,450,725	1,411,821,936	342,371,211

平成28年度剰余金処分案（単位：円）

摘 要	積算内訳	小 計	合 計
I 当期末処分剰余金			128,780,092
II 剰余金処分額			
1. 法定準備金	当期剰余金の5分の1以上	12,410,000	
2. 任意積立金			
持続的な森づくり積立金		30,000,000	42,410,000
III 次期繰越剰余金			86,370,092



平成29年度事業計画総括

大阪府では昨年度から森林環境税を創設・施行され、森林防災や林業振興を目的とした事業を展開しています。森林組合は地域の特性を踏まえながら、協同の力により林業経営の安定化と森林整備に努め、森林環境税事業の趣旨に応えなければならないと考えています。

さて平成29年度も昨年と同様、森林整備系の事業に注力いたします。組合員所有の森林において、国の森林環境保全直接支援事業を導入し、森林経営計画に基づく、集約施業による効率化と有利な木材販売に努め、組合員の利益の確保と社会的使命に資する所存であります。

森林環境税事業の一つである「持続的な森づくり推進事業」に取り組む中で、対象森林の組合員各位とお約束した20年間の協定を担保するため、林業基盤施設の維持管理に必要な基金の造成などにも取

り組みます。この事業によって整備された林業基盤施設を活用することにより、子育て施設の木質化をはじめとする木材の需要に応えるための木材搬出を効率的に進めます。

加えて大阪府及び関係市町村発注の森林整備や防災を目的とする各種事業についても、積極的に応札し、受注活動を行います。

各種の事業に取り組むことで、当組合が育んできた技術や技能を発揮させることが府民の安心・安全な暮らしにつながるとともに、組合運営の基盤を支えると考えております。

今後当組合は、ますます組合員の期待に応え、併せて地域社会に貢献するため、森林整備から木材供給までを扱う林業の協同組合組織として、関係機関のご協力も得ながら、安定した経営基盤の確立を目指してまいります。

平成29年度事業計画

1 損益及び取扱い計画 (単位:千円)

部 門	費 用	収 益	損 益
指導部門	3,300	1,700	△ 1,600
販売部門	153,200	165,900	12,700
加工部門	115,900	127,000	11,100
森林整備部門	696,850	938,850	242,000
合 計	969,250	1,233,450	264,200

2 損益計画

I. 事業総利益	264,200
II. 事業管理費	262,600
III. 事業外損益	2,358
IV. 特別損益	△1
V. 利益剰余金(税引前剰余金)	3,957

大阪府森林組合 新たな体制

本年 8 月 18 日に開催された総代会において、「役員改選」の議案が承認され、新たな体制が発足しました。
新体制の役員を紹介します。

■代表理事組合長

栗本 修滋

■副組合長理事

中 和博

藪内 周

奥野 豊(昇任)

橋本 吉兄(昇任)

■理 事

三浦 勝志

長澤 伸之(新任)

寺内 勇

堂脇 末雄

吉田 定雄

蔵人 俊幸

山本 哲三

森下 正敏(新任)

伏井 信之(新任)

越井 康之(新任)

田中 豊秋

南 幸助(新任)

廣田 直久

■職員兼務理事

葛城 修平

花崎 由泰

都解 浩一郎

堀切 修平

山田 重雄(新任)

■監 事

代表監事

南 敏治

芝 久雄

杉本 隆

なお、本総代会において、大中一美様、井関醇一様、西田千萬造様、寺田信正様、井元哲夫様、齊喜徳次様におかれましては任期を満了され、退任されました。
長きにわたり組合の運営にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

林政情報

■林野庁平成30年度予算概算要求について

8月31日、平成30年度予算の概算要求が林野庁から財務省に提出されました。
その要求総額は、3,566億円で、このうち公共事業費は2,260億円、非公共事業費は1,306億円、対前年度比では120.7%となっております。
林業の成長産業化を推進するため、川上から川下までバランスを考慮した施策を展開され

ており、国の意気込みが感じられる概算予算であると感じました。
一方で特色のある地域林業の衰退とともに森林整備の地域格差の拡大、国の旗振りの元、押し進めてきた長伐期施業が継続できるのかどうかなどが、懸念されるところです。
主な事業とその予算額は次のとおりです。
()内は昨年度予算額

1. 林業成長産業化総合対策 【300億円(新規)】

木材の伐採・搬出コストの低減を図ることを目的に、意欲と能力のある事業体に、次の項目に関する支援を行う。

- 路網整備・機械導入の支援
- 主伐・再造林の支援
- 木材加工流通施設、木造公共建築物などの施設整備や流通の合理化に対する支援
- A材需要の拡大を目的とした木材需要者による非住宅分野や2×4建築などでJAS無垢材の購入の支援

2. スマート林業構築促進事業 【4億円(3億円)】

- 航空レーザを用いた森林情報の蓄積やICTの導入を促進することで、森林施業の効率化・省力化に対する支援。
- 市町村での整備が検討される林地台帳に付随するデータの整備に対する支援。

3. 森林・林業人材育成対策 【67億円(60億円)】

- 林業への就業前の青年に対する給付金の支給や、「緑の雇用」事業などによる人材の育成を支援。

4. 建築物の木造・木質化及び木材産業活性化 総合対策【7億円(5億円)】

- 中高層の建築物などに活用できるCLTなど

の利用促進など新たな木材需要の創出、地域材の生産・加工・流通体制づくりを支援。

5. 木材需要の創出・輸出力強化総合対策事業 【9億円(8億円)】

- 公共建築物の木造化・木質化に向けた普及促進。
- マテリアル利用の促進などによる木材需要の創出や、高付加価値木材製品の輸出拡大への支援。

6. 森林・山村多面的機能発揮対策事業 【18億円(17億円)】

- 従来の支援に加え、地域の林業グループが実施する林業技術や安全対策の向上のための研修、再造林の低コスト化などのための技術習得を支援。

7. 森林整備事業(公共) 【1,444億円(1,203億円)】

- 森林施業の集約化を図る地域に対し、間伐や路網整備、主伐後の再造林などを重点的に支援。

8. 治山事業(公共) 【717億円(597億円)】

- 荒廃山地の復旧・予防対策、総合的な流木対策の強化などの推進。
- スリット式治山ダムの設置や、その機能回復に必要な管理道の整備。

土砂などの不適正事案の未然防止のために

当組合は、大阪府が進める建設残土などの不適正処理の未然防止のための情報提供に関わる協定を9月15日に締結しました。

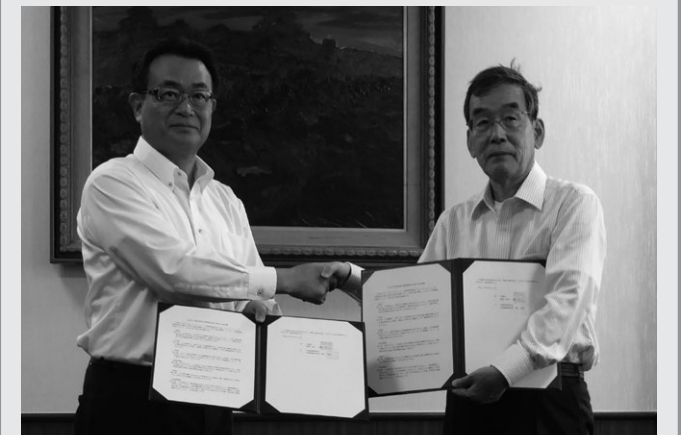
今まで建設残土などの不法投棄は山間部で行われることが多く、行政が状況を把握したときには、大量の土砂の搬入が行われ是正指導が後手に回るケースも少なくありませんでした。

豊能町で発生した土砂崩落は、地域に大きな被害を発生させただけでなく、その処理のために長期間を要したことは記憶に新しいと思います。

これに対し、大阪府では「大阪府土砂埋立て等の規制に関する条例」を制定し、土砂埋立て等の適正化に取り組まれています。

制定された条例の効果を期待するとともに、今回、締結した協定で早期の情報提供により、山間部における違法な土砂の処分が少しでも減り、森林が都市住民の安全・安心な暮らしを支える存在になるよう、当組合としても努力してまいります。

また組合員の皆様におかれても、不審な土砂の埋め立て作業や土砂を積載したダンプトラックが頻繁に出入りするなどを目撃されましたら、お近くの組合事務所までお知らせください。



大阪府との協定締結

SGEC国際認証を取得しました。

大阪府森林組合では府内各地域

において、組合が組合員の皆様を

はじめとする森林所有者の負託を

受けて立案した、経営計画団地で

ある約2,600haを対象に、本年

8月1日に「SGEC国際森林

認証」におけるFM (forest

management:森林経営) 認証のC

OC(chain of custody:加工流通

過程) 認証を取得いたしました。

SGEC認証は、ISO国際基準

に基づき認定機関から認定を受け

た認証機関による第三者認証で、

持続可能な森林経営を実現するた

めに、設定された7つの基準をク

リアすることが求められます。

申請段階では、7つの基準を森

林経営の中で、どのように担保す

るか計画を作成し、その計画が

認められ、今後、その履行が求め



審査機関による対象森林の現地立会

施業前後のモニタリングや生物多様性に配慮した森づくりなど、求められる作業は増加しますが、その必要性などは森林施業を推進する担当者とも共有しており、基

準の一つひとつを確実にクリアしていく所存です。

また同時に取得したCOC認証

は、FM認証を受けた森林から搬

出された木材を消費者の手に届ける

ため、流通・加工の段階で一般

の森林からの搬出材と確実に分別

することが求められます。



申請書類の審査受検

こちらでも分別を担保するための書類の作成などが必要ですが、7つの基準をクリアした認証材を確実に届けるチェーンを切ることがないよう、努力してまいります。

森林認証を取得したことで、当組合の立案した経営計画団地から搬出された木材は森林認証材として流通させることが可能となり、国家プロジェクトにおける木材需要に対して、供給することが可能となります。

実際は木材価格や供給量など、クリアすべき課題はたくさんありますが、まずは森林認証を取得す

森林経営計画へのご協力をお願い

大阪府内産材の有効活用のために

SGEC国際認証取得の記事でも触れたように、当組合が取得した森林認証は、森林経営計画を立案した森林を対象としています。

森林経営計画は、森林の集約化・団地化を進め、効率的な整備につなげるための5年を単位とした計画であり、その計画に基づいて対象森林の所有者との間で長期施業委託契約を締結したのち、市町村の認定を受けて発効するものです。

また、造林補助事業の一つである「森林環境保全直接支援事業」による森林整備の導入には森林経営計画の認定が必要となります。

森林環境保全直接支援事業は、保育を対象としたメニューもありますが、中心となるのは搬出を伴う間伐施業です。国の森林整備が「保育から利用」へシフトし、また国産材による国内木材の自給率50%を上げたことから木材の利用方策についても、バイオマス利用やパルプ原料、新たな建築様式での利用へと広がりをみせています。

当組合においては、前号の通信でもご紹介した、今冬にオープンした豊中市立文化芸術センターの事例をもとに、公共施設での木材利用に向けた働きかけを進めています。

その実現のためには、大阪府内産木材の安定生産が必要となり、その基礎となるのが森林経営計画であると考えています。

組合では、新たな森林経営計画の立案と、既存の計画の更新作業を進めており、森林の調査のための森林への立ち入り、長期施業委託契約の締結作業など、対象森林の組合員様におかれては、ご協力いただきますよう、お願いいたします。



分別管理状況の検分

ることが大前提となります。組合としては、そのような木材需要案件に対して積極的にPRするとともに、大阪府内産の認証木材の流通を目指して、努力してまいります。

SGEC(sustainable green ecosystem council) 2003年に国内制度として創設され、2016年にスイスを本部とするPEFCと総合承認を得て国際認証制度としてスタートした森林認証制度の一つ。



今後の木材建築のイノベーション 「CLT建築」

森林の補助事業が搬出を伴う間伐施業へと国の方針が転換され、今年度で5年目を迎えます。

その結果、国産材の生産量が増加し、直近の情報によると国産木材による国の木材自給率は数十年前に35%に達するそうです。

一方で搬出された木材の利活用についても、様々な方策が検討されています。

そのような中で、公共施設の木材の検討が全国的に進められています。

その要因としては「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」などの法整備とともに、CLTによる木造高層建築技術があるようです。



製材した板の層が直交しているのが特徴

貼り合わせて作る厚いパネルのことを指し、JASでは「直交集成板」と呼ばれます。一般的に知られている集成材は、貼り合わせる

繊維方向が並行になっているのに対し、CLTは直交になっているので、強度が飛躍的に強くなるというものです。また国内では「Jパネル」という3層構造の構造用面材が開発され、主に住宅の耐力壁などに使用されていますが、CLTは最大9層まで積層する部材も存在します。

滋賀県甲賀市にある(株)三東工業社信楽本店は、CLTパネル工法を用いた建築物の構造方法の技術基準により国内初の建築確認を受けた建物で、今年2月末に竣工しました。

外観からも面材が建物を支えていることがわかります。

木造という点、柱が多い軸組み構造が思い浮かびますが、CLTでは大断面パネルを必要な形にカットし組み上げるので、柱材が不要となります。パネルは工場で作られ、建設現場に運び込まれるので、熟練した技術者も不要で短期間に施工することが可能となります。その上コンクリートに比べて軽量・高強度で耐久性と断熱性

に優れる特長を持ち合わせています。さらに高層ビルの建設も可能です。このようにたくさんメリットがあることから、いずれ近いうちにコンクリートから木材への転換も夢でないかもしれません。

将来的に個人住宅の建築着工数は伸び悩みが予想され、建物への木材利用は非住宅分野に活路を見出す必要が求められます。このような建物が増加して木材の利用が進むことは私たちにとってありがたいことではあります。

CLTパネルは、いわゆる「並材」で作られるようですが、我々が先人から受け継いだ優良柱材として育ててきた木材を、今後増加するであろうCLTの建物の中で、どのように活用するのかが大きな課題であり、柱材以外にも内装の壁・天井板への使用も大いにアピールしていくことが必要であると感じました。



(株)三東工業社信楽本店外観



大きな空間も得られる

CLTパネルは、いわゆる「並材」で作られるようですが、我々が先人から受け継いだ優良柱材として育ててきた木材を、今後増加するであろうCLTの建物の中で、どのように活用するのかが大きな課題であり、柱材以外にも内装の壁・天井板への使用も大いにアピールしていくことが必要であると感じました。



工夫次第でこのような使い方も

木材市況

今号の記事にもあるように、当組合では森林認証を取得いたしました。木材共販所としても、木材の流通拠点として広範な森林認証材需要に応えてまいります。

また子育て施設の木質化をはじめとする、府内における大阪府内産の需要にも安定供給できるよう、関係各位への出材協力をお願いとともに、組合各支店の森林整備担当者と情報共有を図り、少しでも木材価格の騰貴につながるよう努力してまいります。

さて木材市況ですが、6月以降、低値安定状況が続いております。

その中でもヒノキ中目材選木については、買い気配で推移しており、今後しばらくは継続するものと期待

していますが、製品の動きが悪いという情報もあり、予断を許さないのが現状です。

木材単価の低迷は共販所の運営にも大きく影響しますが、共販所の役割である大阪府内産材の相場価格決定という機能を絶やすことはできません。

組合では、優良木材表彰や特別市を開催し、市売り機能の活性化を目指しています。

ちなみに今年度の優良木材表彰については、審査を11月22日(水)、表彰を翌年1月に開催予定の初市で行う予定です。

共販所の運営に際し、関係各位のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

組合員様へのお願い



当組合では、組合員の方々のお名前、ご住所、出資口数といった組合員情報は組合員台帳により、厳格に管理させていただいております。

もし森林の相続や贈与により森林所有者のお名前や住所が変更になった場合、組合員情報についても更新手続きが必要となります。

「前の所有者名で組合からの郵便物が届く」などがありましたら、組合員情報が更新されていないことが予想されます。

そのような場合は、所有される森林を管轄する支店まで、ご一報ください。必要な手続きをご案内いたします。

組合員各位のご協力のほど、よろしくお願いいたします。

豊能支店	563-0352	豊能郡能勢町大里17番地 TEL 072(734)0125
三島支店	569-1051	高槻市大字原1052番地の1 TEL 072(698)1121
南河内支店	586-0036	河内長野市高向1818番地の1 TEL 0721(63)0850
泉州支店	594-1115	和泉市平井町300番地3 TEL 0725(58)2025

■木材の取扱い量と単価

平成29年9月22日現在

		材積	本数	単価
スギ	今回	41.15	305	9,056
	月計	158.32	1,108	9,109
	累計	425.44	2,736	10,089
ヒノキ	今回	213.26	1,776	14,408
	月計	416.96	3,821	14,108
	累計	1,203.99	10,758	15,235

「見て・知って・考える」 高校生の森林環境フィールドワークを開催

大阪府森林組合は、関西大学社会安全学部と森林防災に関する教育・研究の連携協定を結んでいます。その一環として、2017年10月26日（木）、関西大学高等部の生徒16名を対象にして同大学高槻キャンパスで森林環境フィールドワーク（野外調査学習）を行いました。当組合の栗本組合長、西川技術管理者、宅見技術室長の3名が講師役を務めました。

関西大学高槻キャンパスは、高槻市の西の山地の高台にあり、里山の景観が維持されています。野鳥が飛び交う一方、シカやイノシシも頻繁に出回っています。日頃はもっぱら街中にいる高校生にとって、このフィールドワークは驚きの連続だったようです。台風に伴う暴風雨で倒木の状況等も見ることができて、森林環境保全はどのようなべきかを考える上で良い機会となったことでしょう。

関西大学社会安全学部との連携活動

当組合は、関西大学社会安全学部と昨年6月、共同して森林防災や減災及び森林環境保全に関する教育研究と社会貢献を行うことを目的として協定を結びました。今年3月には協定を記念しシンポジウムを開催しました。高槻市との共催となり、多くの方々にお集まりいただきました。パネルディスカッションでは当組合と関西大学とで、どのような協働を進めることができるか話し合わせ、森林に関する教育プログラムの開発などの意見が出ました。

このたびの高校生の森林環境フィールドワークは、こうした意見を踏まえて実践することとなりました。

フィールドは里山に囲まれた 関大高槻キャンパス

関西大学高槻キャンパスは、高槻市の西の山地の尾根部、市街地を一望できる位置にあります。萩谷集落から2kmほど手前にあり、もともと里山に囲まれて平成6年に開設されました。20年以上

を経て、造成斜面の樹木も大きく育ち、周辺の里山と一体化しています。

キャンパス内を歩くだけで、里山の生態を観察することができま

森林環境に興味を持つ 高校生たち

今の一般の学校教育では、森林や林業について学ぶ機会は多くありません。しかし森林環境に興味を持つ生徒は少なくないのです。最初は関心が動物や植物に限って

重なることで、森林環境の本質が次第に理解できるようになるはずです。

当組合が関大と協定を結んだ意義は、森づくりなどの林業技術を実践している立場から、森林防災や減災及び森林環境保全の教育研究を共同することによる、この方面への社会貢献にあります。それが普及が進むところにもあります。

森林環境の本質として、里山の成り立ちに見るとおり、地域社会の生活や林業活動とおして維持されている点が重要です。当組合が手がけるフィールドワークはその点を強調できることが特徴です。こうした活動を通して、森林

に関わる仕事に就く人材の芽生えが一つでも増えて育ってゆくことを願っています。

実施状況

数日前の暴風雨から一転、当日は晴天に恵まれ、そして関大高槻キャンパスオフィスの方々のご配慮をいただき、順調に活動することが出来ました。

今回の内容は表及びマップに示したとおり、2時間程度で巡回できるようにテーマと観察コースを設定して、主に森林の構造などについて理解を深めてもらえるようにプログラムを組んでみました。

生徒たちは講師役を務めた私達の話を聞きながら、地形による樹木の生育状況を確認し、ときには恐る恐る林内に入って、森林がどのようなになっているか、地表の状況や樹木の生え方、葉の茂り方や枯れ木の存在などを確認するなど、実際の森林の状況を体験しました。

照度計を使って道路沿いの森林の相対照度を調べる実習もしました。林外と林内の照度を同時に数回測って平均を計算した結果は16.7%。生徒たちにはその作業がとても面白かっただけでなく、林内下層植生の生育のことや間伐の効果の説明を聞いて、森林管理についても理解が進んだようです。

最後には高台のフィールドを利用して、北摂山系の山麓から、大阪平野、生駒山地を眺め、地形を確認するとともに野鳥の飛び方なども学びました。

参加した高校生からは、「高木から低木まで幾重にも層になっていることを確かめられた」「落葉や落枝はいづれ土にかえり、持続



高台から眼下に広がる地形を確認（第6ポイント）

する森の栄養となることを知って感動した」などの感想が寄せられました。

今後の活動に向けて

今回は、一般高校生を対象にした森林環境の教育プログラムの実践の機会となりました。今後は、対象が防災分野を学んでいる大学生の場合の教育プログラムの開発だけでなく、高槻市とも協働して各集落の森林防災のあり方の検討などを進めていくことが考えられます。当組合のこうした取り組みにご理解とご協力をよろしく願っています。



場所	テーマ	内容
第1ポイント	台風による森林被害	台風に伴う暴風雨は森林に、どのような被害を及ぼしたか観察する。
第2ポイント	谷間の森はどうなっているか	谷間を覗いて、斜面上の木の生え方や地表の表れている木の根の形を観察する。シカの食害(森の中の下草、幼樹を食べてしまう)を考える。
第3ポイント	森の構造を見る	斜面の階段から森を横から見て、多層構造であることを理解する。森の構造の各層の木の成り立ちを観察し、同じか違うか確かめる。野鳥を探してみる(この後も観察コースを歩きながら探す)。
第4ポイント	明るいところの植物と暗いところの植物を見る	森林内の地表の状態、木の生え方、葉の茂り方、枯木の存在などを確かめ、森の内外の明るさを比較する(照度計で明るさを測ってみる)。森林内外の植物の種類・生え方と森の中の植物の種類・生え方を比較する。
第5ポイント	自然の森と人が育てる森	人が育てる森でも、自然の森と変わらないほど多様性が高い森になることを理解する。森の縁で野生動物の通り道を探す(足あとなど)。
第6ポイント	眺望	北摂山系の山麓から、大阪平野、生駒山系を眺めて、おおまかに地形を把握する。野鳥の飛び方を観察する。



フィールド・ワークに参加した講師・生徒たち



シンプルながらも安定感を醸し出す外観

実際の生活が「見える」
見学会の開催

今春お引渡しの後、お施主様にご入居されて実際の生活が「見える」生きた見学会を開催したところ、大勢の見学者の方々に足を運んでいただきました。

対象の住宅は、ご夫婦と小さなお子様、家族同様のワンちゃんが暮らす、富田林市の閑静な住宅街の新築住宅です。

広々とした敷地に「シンプルな箱」をコンセプトに建物を配置。外観で目を引くのは、平屋とも見まがう大屋根。このどっしりとした大屋根がシンプルな形状の住宅に、建物としての安定感とそこに住まう人に安らぎを与えています。



建築事業部だより

■建築事業部フリーダイヤル
0120-630-854
■建築事業部公式サイト
<http://www.sinrin.org>



広々とした玄関ホール

玄関扉を開けると大きな土間に加え、登梁に視線が向かう広々とした玄関ホールが来る人を出迎えます。そこからつながるリビングダイニングは、大きなサッシの外にひるがる芝生の庭と一体感を持たせた開放的なデザインとしています。

水廻りを含めた動線は回遊性を持たせて機能的に仕上げるなど、多くの見学者の方々に共感を得ることができ、まさに生活が「見える」見学会と高い評価をいただくことができました。

お越しいただいた新たなお客様との接点を生みだすきっかけにもつながり、実りのある見学会とすることができました。

見学会などの各種の情報は建築事業部の公式サイトをご覧ください。

保育園補助事業工事了

大阪府では、府の森林環境税による大阪府内産材を用いた子育て施設の木質化を進め、子供の成育環境の充実を図る事業（子育て施設木のぬくもり推進事業）が昨年より開始されました。

本年度も木質化を計画する子育て施設の募集が行われ、建築事業部では、事業に応募された河内長野市内の保育園の木質化工事を受注し、先日、無事完了しました。

同園からは、遊戯室の床をヒノキ無垢材フローリングにすること意向を受け、組合の「ウッドベース



ヒノキ無垢材フローリングの遊戯室

かわちながの」から材を調達し、施工いたしました。

お引き渡し前から、ヒノキのフローリングが敷き詰められた遊戯室の中を、元気な子どもたちが走り回る姿が想像され、幼いころから木に親しむことの素晴らしさを再認識いたしました。

組合員様限定 秋のリフォームフェア

秋のリフォームフェアとして組合員様限定で年内に、次の工事をご成約いただいた方に、次の特典をご用意いたしました。

① キッチンリフォーム工事ご成約で食器洗い乾燥機をプレゼント



写真はイメージです

② ユニットバスリフォーム工事ご成約で浴室乾燥機をプレゼント

皆様からのお問い合わせを、お待ちしております。

HPもリニューアル Facebookも開始

木根館 ラ・フォレスタ イベント情報

●ラ・フォレスタ ☎0721-72-0090
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/foresta/sinrinforesta>
●木根館 ☎0721-64-8151
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/kinkonkan>



ままごとキッチン

◇ワークショップ

施設名	イベント名	内容	開催日	申し込み
木根館	ままごとキッチン	大人気のままごとキッチン台の製作(要2日間の大作) サイズW490×D250×H920	1月21・28日 9:30～16:00	受付は12/5～ (先着定員12名) 材料費9,000円
木根館	ままごと冷蔵庫	大人気ままごとシリーズ第2号 お片付けもできる冷蔵庫サイズ W300×D275×H600	2月25日(日) 9:30～16:00	受付は1/5～ (先着定員12名) 材料費6,000円
木根館	花が際立つ花フレーム	お好みの花を並べれば、絵画のようなフレームのできあがり サイズW500×D730×H950	3月25日(日) 9:30～16:00	受付は2/6～ (先着定員12名) 材料費4,000円
木根館	ワンコインワークショップ	手軽に楽しめるDIY小型の杉リース・木製フレーム・試験管一輪挿し等商品は適宜入れ替わります。	随時受付45分程度で完成	予約必要なし 材料費500円
ラ・フォレスタ	作品展	ラ・フォレスタ木工教室展	1月5日～1月28日 の金土日祝	ラ・フォレスタ営業日は自由入場
ラ・フォレスタ	作品展	山口光行写真展	2月2日～3月25日 の金土日祝	ラ・フォレスタ営業日は自由入場

木根館のスタッフ紹介

現在、木根館には館長と日替わりで接客を担当する女性2名、企画を担当する女性1名で運営していますが、その中心的存在の具嶋勇館長をご紹介します。

福岡県出身の具嶋館長は、大手の内装・家具デザインを手掛ける企業で、長年にわたり店舗の設計に従事。定年後は大好きな木と木工クラフトに関わりたいとの思いから、地元の森林ボランティアグループに所属され、その活動を通じて森林組合とのつながりを持ちました。

平成28年4月に館長就任をお願いしたところ快諾

いただき、現在に至ります。

木根館の館長の仕事は、木工教室の企画運営、お客様への指導、木製品の製作販売、河内林業や河内材のPRなど多岐にわたり、多忙な日々を送っておられます。

木工指導におかれては、親切で丁寧な指導を心掛けられ、来館者より「非常に分かりやすく丁寧に教えてもらった」という感想をたくさんいただいています。

これからも、楽しい魅力ある木根館の運営に期待しています。



丁寧な指導が評判の具嶋館長

ヒノキのベンチを 河内長野市役所に 寄贈

前回のくみあい通信で紹介した、東京で開催された、坂本龍一さんの展覧会で使用されたおおさか河内産ヒノキ材で作成したベンチを記憶されておられますか？

展覧会終了後、そのうちの4基が南河内支店に戻され、支店に併設する本根館で展示とともに来館者が休憩できるベンチとして利用されてきました。

このベンチを「おおさか河内材」のPRに今以上に活用できないかと考え、河内長野市役所に2基の寄贈を申し出たところ、市長室と市民が利用する通路に設置したいとの回答を得て、9月14日に市役所に持込と設置、9月19日に市長より感謝状を受領するに至りました。

東京で展覧会を成功に導いたヒノキベンチは、里帰りしてから、自身が生まれ育った河内の山から生産される木材のPRと来庁者の休息に、さらに大きな役割を果たしてくれることを期待しています。



島田河内長野市長（左）より感謝状を受領

**共販所で
広葉樹の製品市を
開催します。**

●お問い合わせは
大阪府森林組合木材共販所
☎0721(72)7755

大阪府内産材の流通拠点として、スギ・ヒノキを中心とした針葉樹の原木市場としての役割を果たす木材共販所。

その木材共販所で、広葉樹の板材を中心とした製品の展示販売会「千早de広葉樹 ふれあい製品市」を11月25日に開催することになりました。

これは原木市の開催日に多数、ご参集いただく買い方様には、今後も優良材を提供することでご愛顧いただきながら、木工クラフトやDIYを楽しむ層にまで、木材を扱う市場を広く開放することが目的です。

今回が第1回目であり、成否は「天のみぞ知る」という状況ですが、一人でも多くの方が共販所の存在を知り、興味を持っていただければ、「成功！」と気負いなく取り組みたいと思います。

当日は、エスユース農園の野菜をはじめジャム、ラスク、シフォンケーキの販売とともに骨董品販売を扱う、いつもはラ・フォレストで開催している「森のマルシェ」を共販所で出張開催します。

「金剛山や楠木正成は知っているけど行ったことがない」という方は、晩秋の千早赤阪村を満喫しつつ、広葉樹の製品市にも足を延ばしてみませんか。

こんなところに木材利用

**公衆浴場(銭湯)で
ヒノキを浮かべて
『檜の湯』**

豊能支店では、スギ・ヒノキなどの利用はもちろんのこと、クヌギ・コナラなどの広葉樹林の再生を目指し、薪や椎茸原木などの生産販売にも取り組んでいます。

特に薪の取り扱いを始めてから、たくさんのお問い合わせをいただいております。年々、取扱量が増えています。



取扱量が増える薪

います。

薪を燃料として使用する燃焼機器としては、薪ストーブやピザ窯などが一般的ですが、大阪市内のある銭湯では薪ボイラーを加熱に使用するという、取り組みを進められています。

2、3年前、大阪市鶴見区にある第二栄温泉（代表・谷内田博志さん）という銭湯が、ガス燃料高騰の経費削減対策として薪燃料ボイラーを導入されてから、薪の取

り引きを通じて城東鶴見浴場協同組合との交流が始まりました。



第二栄温泉の外観

**お風呂を沸かし、身体を洗い、
温もり、疲れを癒す。**

代表の谷内田さんは「不特定多数のお客さんにお湯を提供できるのは、整備された水道行政のおかげでもあります。忘れてはいけないのが、山の恩恵です。森と水は互いに深く関わり合っています。山を守り、森を育てなければ、水の恩恵を受けることができません。大量の水を消費する公衆浴場として、森林保全のために何か役に立てないかという思いから、城東鶴見浴場協同組合として『檜の湯』に取り組むことになりました。」と語ります。



谷内田博志さん

『檜の湯』は、写真のように、ヒノキの間伐材をスライスしたものを湯船に浮かべて、見て、触れて、香りや心地良さを楽しんでいたのだそうです。お湯の汚れも無く、リフレッシュ・リラックス効果があり、消臭・脱臭・殺菌効果など、さ

さまざまな効能が期待されています。



湯船に浮かぶヒノキのスライス

本物の木に触れたことがない都市部の子供たちのためにも、『檜の湯』は、幼稚園児体験入浴や、毎週土曜日開催の親子ふれあいデーに合わせて実施することで、木育・浴育効果も得られるとして、大好評イベントとなっているそうです。

また、公衆浴場という場所柄、コミュニケーションスペースには吸湿性の高い素材を使った製品が馴染み易いことから、テーブル&ベンチ、切株スツールなどの木製品の導入の検討も始めていただいたところでした。

現在、城東鶴見浴場協同組合が中心となって進めているこの取り組みは、既に福岡・東京・神奈川県・北海道からも発注があり、他府県にもどんどん広がりをみせております。

その取り組みのさらなる広がりを期待し、「Forest Good 2017」間伐・間伐材利用コンクール」に応募されたところ、見事、間伐実践・環境教育部門「間伐・間伐材利用推進ネットワーク会長賞」を受賞。10月27日に受賞の栄誉に浴されることとなりました。

このことを契機に、森林組合と浴場組合の絆の深まりを期待するとともに、色々な取り組みを通じて、様々な分野の方々とも交流の輪を広げていきたいと思います。



丸大食品
心に残る贈り物
丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

大阪府森林組合の皆様には
特別価格でご案内申し上げます。
同封のチラシをご覧ください。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10
TEL 06(4398)3038 FAX 06(4398)3063